直木賞受賞のベストセラー小説を映画化
山田洋次監督が挑む、新しい世界――

数々の名作を世に送り出して来た山田洋次が、監督作82本目にして全く新しい世界へと踏み出した――。
ことの始まりは、2010年に第143回直木賞を受賞した、中島京子のベストセラー「小さいおうち」。
読了後、「自分の手で映画化したい」と熱望した山田監督は、すぐに作者に手紙を書いた。
50年以上に渡って、"家族の絆"を描いてきた山田監督が、今作では初めて、"家族の秘密"に迫る。
家族の温かさを見つめ続けたその目で、今回は更に深く、人間の心の奥底に分け入り、
その隠された裏側までも描きだそうとする――。
そんな、監督の情熱から生まれたかつてない意欲作が、ついに完成した。

小さいおうちに封印された"秘密"が、60年の時を経て紐解かれる――切なくもミステリアスな物語

昭和初期、東京郊外に佇む赤い屋根の家に奉公した女中タキが見た、ある"恋愛事件"。その時、タキが封印した"秘密"が、60年の時を経た平成の今、タキにつながる青年の手で紐解かれていく。真相に近づくカギは、大学ノートに綴られたタキの自叙伝と、一通の宛名のない未開封の手紙にあった。時代が許さなかった恋愛事件の主役である女主人・時子の思いがけない運命と、彼女を慕い続けたタキ。それぞれが胸に秘めた切ない想いとは――？

小さく可愛らしいこの家で、いったい何が起きたのか？　昭和と平成を行き来しながら謎を解くミステリアスな展開から眼が離せない。さらに、揺れ動く女たちの心が胸をしめつける――。

懐かしくて美しい、昭和モダンの時代

物語の時代背景は、昭和10年～終戦直後、そして平成12年～21年頃。二つの時代が交差しながら、やがて一つにつながっていく様が、リアルかつ壮大に描かれる。この昭和パートを彩るのが、当時花開いていた＜昭和モダン＞。西洋文化と日本文化が混じり合って生まれた、独特の世界観だ。本作でも赤い三角屋根の家の中に、オシャレで可愛らしい当時の流行が完璧に再現された。

一方で、そんな華やかで平和な日々のすぐ背後には、恐ろしい戦争へと向かっていく軍国主義の影も迫っていた。現代と非常に似ている時代でもある。この時代に生きた人々の心の動き、葛藤を見つめることで、今の日本が果たしてどこへ向かっていくのか、先行きの見えない現代を生きる私たちの進むべき道筋も見えてくるのかもしれない。

日本映画界を担う実力派と、次世代を担う若手俳優
豪華キャストの競演が実現！

時子を演じるのは、『告白』『夢売るふたり』など、話題作への出演が相次ぐ松たか子。平成に生きる現在のタキには、『男はつらいよ』シリーズ等で、山田監督と50年以上に及ぶタッグを組んできた名女優、倍賞千恵子。その他、時子の恋の相手・板倉役に吉岡秀隆、夫・雅樹役に片岡孝太郎、昭和のタキ役には黒木華、そして真相を紐解く現代の青年・健史役に妻夫木聡を始め、山田組でしかなし得ない総勢20名以上にもなる豪華で多彩なキャストが実現した。

さらに、『東京家族』に続いて、久石譲が音楽を担当。スクリーンに豊かな情感と比類なき品格を与えている。

封印された秘密の全貌を知ったとき、静かな衝撃と深い余韻が、あなたを包み込む――。